



海外留学の学習成果分析

2016年3月17日

日本学生支援機構 海外留学支援制度シンポジウム

東洋大学 国際地域学部

花田 真吾



海外留学の学習成果分析について

1. 何を分析するか？
2. どうやって分析するか？

海外留学の学習成果分析

1. 何を分析するか？

→ 200種類以上の項目がある。

(例) Intercultural Competence, Global Mindset, Resilience

2. どうやって分析するか？

→ 国内大学での主な実践例として以下があげられる。

(例)

- 学生の振り返りペーパー
- 振り返りワークショップ
- 独自に作成したルーブリック

1つの課題

もう一歩進んだ多面的・客観的な
評価方法はないだろうか？

Psychological Approach

- 異文化環境下での心理的ストレスと適応に注目
(例) Lysgaard (1955) “W-Curve Theory”



Chinn (2016) Beyond Welcome Home! Ten Things You Need to Know about Reentry. Retrieved from <https://emqonline.com/reentry>

Communication Approach

- コミュニケーションスタイルの違いとその適応に注目

(例) Hall (1976) “High & Low Cultural Context Theory”

コミュニケーションスタイルとして、

・ High Context Culture
お互いを深く知って
信頼関係づくりを重視。

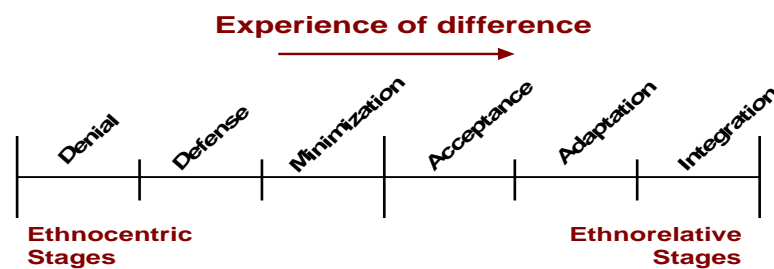
・ Low Context Culture
お互いの意見、情報を知るために
情報交換を重視。



Epistemological Approach

- 異文化に対する認識能力（Cognitive Development）の発達プロセスに注目
- 実践に活かせるAnalytic tools（尺度）の開発が進められてきた。

- (例) Bennett (1993) “Developmental Model of Intercultural Sensitivity”
- 自文化中心的な捉え方から、文化相対的な捉え方への発達プロセスをモデル化

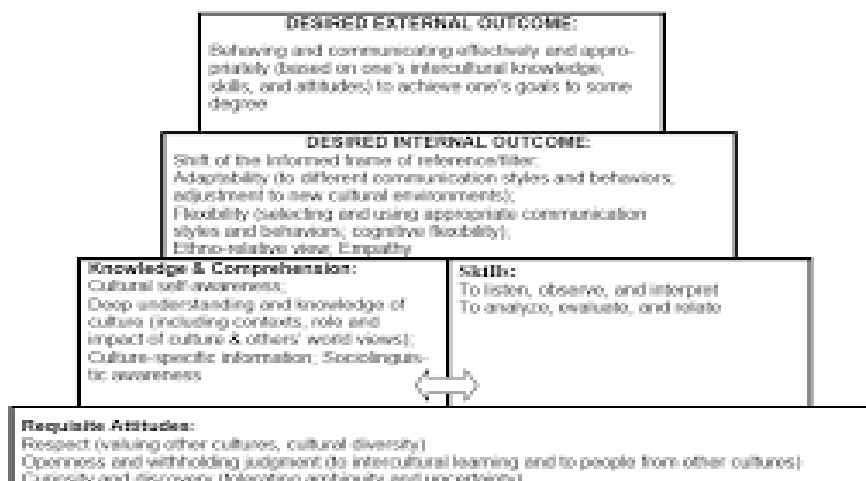


Compositional Approach

- 異文化適応力の具体的な資質（Specific components）に注目

(例) Deardorff (2006) “A Pyramid of Intercultural Competence”

- Knowledge, Attitude, Skillsの構成要素



Reference

- Bennett, M.J. (1993). Towards Ethnorelativism: A developmental model of intercultural sensitivity. In R.M. Paige (Ed.), *Education for the intercultural experience* (2nd Ed.). (pp. 21-71). Yarmouth, ME: Intercultural Press.
- Deardorff, D.K. (2006). Identification and assessment of intercultural competence as a student outcome of internationalization. *Journal of Studies in International Education*, 10(3), 241-266.

BEVI

1. 何を検証するか？

- 個人の信念 (Beliefs) や価値観 (Values) など深い部分を分析する analytic tool。
- 信念や価値観の変化に影響を及ぼした海外での具体的な経験に焦点を当てるため、振り返りがしやすい。

2. どうやって検証するか？

- 量的かつ質的分析で分析する。
- さらに、分析結果をもとに、自己検証や学習目標の明確化の一助となるため、教育的な効果が期待できる。



ご清聴ありがとうございました。

東洋大学 国際地域学部
花田 真吾